

recovery 2例, Mild disability 1例, Severe disability 1例, Vegetative state 1例, Death 1例であった。低体温療法は、全脳虚血・脳挫傷に有用と思われるが、感染症等の問題もあり、さらに検討したい。

27) 完全自殺マニュアルと薬物中毒

田中 敏春・国分誠一郎
 波江智栄子・永田 幸路 (新潟市民病院)
 遠藤 裕 (麻醉科)
 本多 忠幸 (同救命救急センター)

新潟市民病院救急救命センターには、日夜を問わず重症な患者が入院してくるが、その中でも薬物中毒の患者は少なくなく、さらに最近『完全自殺マニュアル』を読んで、その通り大量の薬物を服用してきた例を数例経験した。どれも文章中での記述通りの致死量を服用しているのが特徴であるが、症例全てを市民病院救急救命センターは救命した。このことから『完全自殺マニュアル』は明らかに、完全ではないことが指摘できるが、症例の平均年齢が若いことからいって、この本が若年層に与える影響は少なからずあり、今後も『完全自殺マニュアル』を参考にした中毒症例の増加が危惧され、注意が必要と思われる。

28) Cephalic tetanus の治療経験

渡辺 逸平・佐藤 一範 (新潟大学集中治療部)
 吉川 恵次 (同救急部)

誤嚥性肺炎を合併した破傷風第2期の治療を経験した。結果的には破傷風第3期(全身痙攣期)へは移行せず、順調な治癒経過をとった。左眼瞼外側の受傷が原因と思われる、左顔面神経麻痺と、右動眼神経麻痺(外眼筋麻痺)を呈し、脳神経症状を合併する cephalic tetanus と診断された。痙攣は認められなかったため、筋弛緩薬を使用しないで管理していたところ、表情筋の症状が被覆されずに発見できたものと思われる。

〈報告〉 プロポフォール臨床使用見聞録

山倉 智宏(新潟大学麻醉科)

今回、ベルギーのブリュッセル大学病院にて、プロポフォールを使用した完全静脈麻酔(TIVA)の臨床研修に出席し、そこで、TIVAの利点、施行に伴う問題点、臨床使用での安全性、薬物動態学、薬物力学、実際の投与方法、薬物相互作用、局所麻酔中や集中治療室での鎮静薬としてのプロポフォールの使用方法、プロポフォール使用に関わる合併症(血行動態変化、感染)などについて研修した。プロポフォールの優れた薬物特性、臨床使用での安全性について理解を深めることができた。